
十日町市教育委員会 文化財課 年報 4

平成11年度 (1999.4 ~ 2000.3)

十日町市教育委員会 文化財課

例 言

1. 本書は、十日町市教育委員会文化財課の平成11年度を中心とした活動記録である。
2. 本書の構成は文化財課の業務を大まかにⅠ. 運営、Ⅱ. 指定文化財、Ⅲ. 埋蔵文化財、Ⅳ. その他の4つに分類し、本来はⅤ. 調査・研究に入るべき資料紹介はⅢ. に含めた。
3. 本書の原稿は、文化財課職員がそれぞれ担当を決めて執筆し、末尾に担当者名を記した。資料紹介については、紀要的内容に鑑みて記名原稿とした。
4. 提出された原稿は、できるかぎり原文を尊重した。ただし、用字・用語、内容、表記など執筆者の了解をえて編集者が修正した箇所がある。
5. 本書の編集は石原正敏が担当し、菅沼亘、太田喜重、山田敏枝、上野洋子の協力をえた。
6. 文化財の保護・調査活動から本書作成までに、教育委員、文化財保護審議会委員、指定文化財の所有者・管理者の各位をはじめ下記の個人、団体、機関などからご支援・ご協力をいただいた。記して御礼申し上げる次第である。

(50音順、敬称略)

相田 泰臣 井口熊治郎 岩田 忠員 大谷 幸子 小熊 博史 春日 真実 河崎 政治
吉楽 勝弥 楮沢美千代 桑原 健二 越村 栄一 近藤 孝子 佐藤実千代 関口 良吉
関口 祥司 関口 良吉 関谷袈裟松 高野 カツ 高橋 昭治 高橋友二郎 高橋 勝
田川 欣五 田辺昭一郎 外山 進 仲 和子 庭野とも子 庭野 良平 根津 恵
野口百合子 長谷川周平 長谷川福次 馬場奈穂子 樋口 美保 福原 健一 藤木 悌次
真霜 金吉 水落 武治 宮内 信雄 山崎 国政 山田 郁子 若井 英男 和田 アサ
和田 安治 (株)こうそく 十日町市企画人事課・総務課・農林課 十日町市博物館友の会

(株)十日町測量 十日町農地事務所 特別養護老人ホーム三好園 新潟県
新潟県教育庁文化行政課 文化庁

目 次

| | |
|-------------------------|-------------|
| I. 運 営 | |
| 1. 文化財保護活動この1年 | 1 |
| 2. 予算と決算 | 1・3 |
| 3. 組織および職員体制 | 2 |
| 4. 文化財保護審議会の経過 | 2 |
| II. 指定文化財 | |
| 1. 国宝「笹山遺跡出土品」について | 4～7 |
| 2. 新指定文化財—平成11年度の状況 | 8～9 |
| 3. 指定文化財の保存・管理 | 10～11 |
| 4. 指定文化財の活用 | 12～16 |
| III. 埋蔵文化財 | |
| 1. 発掘調査概要および1次整理事業 | 17～18 |
| 2. 埋蔵文化財等調査報告書刊行事業 | 19 |
| 3. 資料紹介 十日町市出土の動物意匠土器3例 | 石原正敏……20～21 |
| IV. その他 | |
| 1. 指定文化財一覧 | 22～23 |
| 2. 文化財保護活動関連データ | 23～24 |



I. 運 営

1. 文化財保護活動この1年

平成11年度の文化財保護活動を概観する。最も大きな出来事は、笹山遺跡出土品の国宝指定であり、梅原猛氏の博物館名誉館長就任、博物館開館及び同友の会設立20周年記念事業などの慶事が重なり、多忙な一年であった。

当市における文化財保護活動は、近年、各種の開発事業にともなった発掘調査を中心に展開されてきた。平成10年度の『笹山遺跡発掘調査報告書』の刊行は、活動の中心を前進させたものであり、今後も継続・発展させることが求められている。

国宝指定 笹山遺跡出土品

平成11年6月7日付けで笹山遺跡出土品 928点が国宝に指定された。この国宝指定は、新潟県内では初めてのものであり、また、考古資料のうち、縄文土器が国宝に指定されるのは全国で初めてである。待望の国宝指定とあって、文化財関係者や関係機関をはじめ、多くの市民が喜びを分かちあった。

指定品の概要、指定までの経過および記念事業のあらましなどについては、本書4～7頁のとおりである。

国宝館・火焰の都計画策定委員会

国宝の保存と活用を図るため、市長の諮問により平成11年9月1日に國學院大学教授・小林達雄先生を委員長とする国宝館・火焰の都計画策定委員会を立ち上げ、現在審議中である。委員は11名で、事務局は博物館内にある。平成11年12月に計画概要が中間答申され、平成12年中に最終答申が出される予定になっている。



写真1 市長に答申する小林委員長

文化財指定

教育委員会は、平成12年2月29日に太子堂村検地帳4点、幅上遺跡出土品一括の2件を市指定文化財

にすることを文化財保護審議会に諮問した。

文化財保護審議会は3月16日に審議会を開き、市指定文化財とすることが妥当である旨の答申した。これを受けて、3月17日の教育委員会で文化財として指定することを決定し、同21日に告示された。

指定品の概要は、本書8～9頁に、11年度末現在の指定文化財一覧は22～23頁に掲載した。

指定文化財の管理等

近年、東枯木又龍王社のカスミザクラに枯れ枝が多発している。今年度は、樹幹に植物活力剤の埋込み、枯れ枝の除去などを行なった。文化財に指定した樹木・樹林は高樹齢のものが多く、今後も樹勢の衰えなど同様な問題が生ずるものと考えられる。

県指定文化財「神宮寺観音堂・山門」は、平成8年から県費補助を受けて屋根の葺替えを行ってきたが、今年度も事業費300万円で山門南側および西側の一部について事業を実施した。本事業は12年度も継続される予定である。

赤倉神楽保存会では、県費補助事業を受けて後継者育成などの事業を行ってきた。今年度が3ヶ年継続事業の最終年次であり、次年度以降をどうしていくのか大きな課題である。

指定文化財の保存・管理・活用状況については、本書10～16頁のとおりである。

発掘・試掘調査

平成11年度は下条地区の谷地A遺跡、中新田A遺跡、中条中山間地区の泥木遺跡など6遺跡の確認・本調査と4件の試掘調査を行った。その概要は本書17～18頁のとおりである。また、別に刊行する『平成11年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』および『平成10・11年度 県営ほ場整備事業上組工区内遺跡発掘調査概要報告書』も合わせてご参照いただきたい。

出土遺物の整理

平成11年度は馬場上遺跡ほか古代遺跡の出土遺物を中心に調査報告書刊行に向けた整理をすすめてきた。その進行状況及び今後の展望については本書19頁に報告する。

この1年間の各種事業を実施するにあたり、ご指導・ご協力をたまわった関係各位に心から感謝申し上げる次第である。
(山田正毅)

2. 予算と決算

平成11年度予算は、当初38,400千円であったが6月、9月、12月、3月の補正を経て、決算は35,466千円となる見込みである。大別すると(1)一般経費、(2)文化財保護調査費、(3)埋蔵文化財関係経費からなる。

(2)では、例年同様に神宮寺山門の茅屋根修理や赤倉神楽の後継者育成事業ほかに補助を行っている。

(3)では、遺跡の試掘・確認調査事業に国庫および県費の補助を受けている。また、継続事業の馬場上遺跡ほか古代遺跡の発掘調査報告書作成作業を行う一方で、緊急地域雇用特別交付金による出土品の保存・整理・活用事業が9月補正で追加された点に本年度の特徴がある。(村山恵美子・高橋トシ子)

3. 組織および職員体制

11年度の組織および職員体制は以下の通りである(博物館職員を一部含む)。文化財課が本務で、博物館を兼務する職員が5名、博物館が本務で、文化財課を兼務する職員が4名となっている。なお、市史編さん関係業務が情報館に移管され、人員は1名減となった。

| | |
|-------------------|-----------------|
| 文化財課長 | 山田正毅(兼務、11年4月～) |
| 課長補佐・文化財係長(文化財主事) | 阿部恭平 |
| 主査 | 高橋トシ子(兼務) |
| 〃 | 高橋アキ(兼務) |
| 主任 | 村竹 修(11年4月～) |
| 〃(文化財主事) | 石原正敏 |
| 〃(〃) | 菅沼 亘 |
| 主事 | 太田喜重 |
| 〃 | 村山恵美子(兼務) |
| 調査研究員 | 中澤幸男(嘱託、博) |
| 臨時職員 | 山田敏枝 |
| 〃 | 上野洋子 |
| 〃 | 山口真佐子(博) |
| ※転出 | 風間栄光(教委 庶務管理課へ) |
| 〃 | 丸山克巳(情報館へ) |
| 〃 | 角山誠一(健康福祉課へ、博) |

注:(博)は博物館職員
(高橋トシ子)

4. 文化財保護審議会の経過

第1回 平成11年5月10日(月) 13時30分～15時30分

《出席者》竹内道雄、樋熊清治、佐野良吉、大島伊

一、上村政基、田村喜一、須藤重夫の各委員及び生越教育長、山田、阿部、高橋(ア)、石原

本年4月からの職員体制の紹介。笹山遺跡出土品の国宝指定に伴う特設展示工事及び諸事業の報告。今年度指定物件についての協議の後、笹山遺跡出土品の保存、活用について建議を教育委員会に提出。会議終了後、市役所で市長と懇談。

第2回 10月20日(水) 13時30分～15時30分

《出席者》竹内、樋熊、佐野、大島、上村、田村、須藤の各委員及び生越教育長、山田、阿部、高橋(ア)、石原、菅沼

国宝指定記念式典、特別展、国宝館・火焰の都計画策定委員会の進捗状況、火焰型土器出土状態模型製作、発掘調査状況などを報告。その後、指定候補物件の幅上遺跡出土品、太子堂村検地帳の実見調査。文化財保護研修会 11月25日(木) 13時～17時30分

(郡市社会教育振興会主催：当番 川西町)

研修参加者は23名で、当市からは委員4名、事務局2名が参加した。

第3回 12月20日(月) 13時30分～15時30分

《出席者》竹内、樋熊、佐野、大島、上村、田村、須藤の各委員及び生越教育長、山田、阿部、高橋(ア)、石原、菅沼

博物館開館・同友の会設立20周年記念事業、笹山遺跡出土品の国宝指定書及び別添目録の受理、羽川(秋葉山)城跡の説明板設置、国宝館・火焰の都策定委員会中間答申、東京国立博物館「日本の国宝展」への国宝貸出しなどについて報告。その後、指定候補物件の①幅上遺跡出土品一括、②太子堂村検地帳4点の2回目の調査および協議。平成12年度の文化財課の方針、重点及び主な事業概要について説明し、鉢の石仏環境整備等に伴う現状変更などについて協議。

第4回 平成12年3月16日(木) 13時30分～17時00分

《出席者》竹内、樋熊、佐野、大島、上村、田村、須藤の各委員及び生越教育長、山田、阿部、高橋(ア)、石原、菅沼

考古資料・幅上遺跡出土品一括、古文書・太子堂村検地帳4点の2件の指定について審議。全員一致で指定に賛同。答申書を教育委員会(教育長)に提出。平成12年度の事業および予算、観泉院山門の現状変更等完了報告の後、鉢の石仏の現状変更などについて協議。(高橋アキ)

歳入予算（決算見込）

（単位：千円） ※3月23日現在

| 1 3 款 国庫支出金 2 項 国庫補助金 5 目 教育費国庫補助金 | | | |
|------------------------------------|----------------------------|------------|------------|
| 節 | 説 明 | 予 算 額 | 決 算 見 込 額 |
| 4. 社会教育費補助金 | 2 5. 遺跡調査遺物整理補助金 | 5 0 0 | 5 0 0 |
| 1 4 款 県支出金 2 項 県補助金 6 目 教育費県補助金 | | | |
| 4. 社会教育費県補助金 | 2 0. 遺跡調査遺物整理補助金 | 2 5 0 | 2 5 0 |
| | 3 0. 伝統民俗芸能等後継者育成事業補助金 | 5 0 0 | 5 0 0 |
| | 3 5. 遺跡調査遺物整理事業補助金（ほ場整備事業） | 2, 1 8 0 | 2, 1 8 0 |
| 1 4 款 県支出金 2 項 県補助金 8 目 労働費県補助金 | | | |
| 1. 緊急地域雇用特別交付金事業補助金 | 5. 緊急地域雇用特別交付金事業補助金 | 2, 5 0 0 | 2, 5 0 0 |
| 1 9 款 諸収入 4 項 受託事業収入 2 目 教育事業受託収入 | | | |
| 1. 遺跡調査業務受託収入 | 5. ほ場整備事業遺跡発掘調査受託収入 | 1 7, 0 0 0 | 1 7, 0 0 0 |

歳出予算（決算見込）

（単位：千円） ※3月23日現在

| 節 | 説 明 | 予 算 額 | 決 算 見 込 額 |
|-----------|---|------------|------------|
| 1. 報 酬 | 文化財保護審議会委員報酬 | 1 8 8 | 1 7 1 |
| 7. 賃 金 | 臨時職員賃金 3,781・発掘調査人夫賃金 11,679・調査補助員賃金 850・遺物整理人夫賃金 7,670・文化財保護人夫賃金ほか 179 | 2 4, 1 5 9 | 2 3, 6 5 5 |
| 8. 報 償 費 | 指導者謝礼ほか | 2 1 0 | 1 8 9 |
| 9. 旅 費 | 費用弁償 59・普通旅費 72 | 1 3 1 | 1 2 1 |
| 11. 需 用 費 | 消耗品費 1,421・燃料費 138・食糧費 6・印刷製本費 1,046 修繕料 270 | 2, 8 8 1 | 2, 7 9 8 |
| 12. 役 務 費 | 手数料 16・保険料 32・通信運搬費 4 | 5 2 | 4 6 |
| 13. 委 託 料 | 地形測量委託料 1,873・指定文化財管理委託料 522・遺物整理作業委託料 2,500 | 4, 8 9 5 | 4, 4 2 7 |
| 14. 使用料ほか | コピー使用料 210・発掘用重機借上料 1,410 | 1, 6 2 0 | 1, 6 1 8 |
| 15. 工事請負費 | 指定文化財説明板設置工事 | 6 9 0 | 3 6 8 |
| 16. 原材料費 | 遺構保存用原材料 | 4 0 | 2 9 |
| 18. 備品購入費 | 文化財資料 150・参考図書備品 10 | 1 6 0 | 1 6 0 |
| 19. 負担金ほか | 指定文化財保存修理事業費補助金 | 1, 8 7 0 | 1, 8 7 0 |
| 27. 公 課 費 | 自動車重量税 | 1 4 | 1 4 |
| 合 計 | | 3 6, 9 1 0 | 3 5, 4 6 6 |

II. 指定文化財

1. 国宝「笹山遺跡出土品」について

平成11（1999）年4月16日（金）、国の文化財保護審議会は、文部大臣の諮問に対して、これまで重要文化財（平成4年6月22日指定）であった「笹山遺跡出土品一括」を名称を変更して国宝に指定するよう答申した。これをうけて、平成11年6月7日付け文部省告示第135号で官報告示され、正式に国宝に決定したが、国宝指定書はかなり遅れて同年10月14日付の交付で、県を経由し11月23日に到着した。

新潟県にとっては、初の国宝指定であり、縄文時代の資料では長野県茅野市棚畑遺跡出土の土偶（平成7年度指定、縄文ビーナスの愛称を持つ）に次いで2例目、縄文土器では国内最初の国宝となった。

(1) 国宝の名称、員数および内訳

| | |
|--------|--------------------------|
| 種別 | 考古資料 |
| 記号番号 | 考第39号 |
| 指定年月日 | 平成11年6月7日 |
| 名称及び員数 | 新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器 57点 |
| | 附一、土器・土製品類 72点 |
| | 一、石器・石製品類 791点 |
| | 一、ベンガラ塊 8点 |
| 所有者 | 新潟県十日町市 |
| 所在の場所 | 新潟県十日町市西本町1丁目 十日町市博物館 |

（細目内訳）

| | | | |
|------------|------|----------|------|
| 深鉢形土器 | 57箇 | | |
| 附1、土器・土製品類 | | | |
| 浅鉢形土器 | 5箇 | 小形土器 | 7箇 |
| 土偶残欠共 | 34箇 | 土製耳飾 | 20箇 |
| 土製円盤 | 3箇 | 土製三角壺 | 3箇 |
| 附1、石器・石製品類 | | | |
| 石斧 | 409箇 | 石鏃 | 28本 |
| 石槍残欠共 | 13本 | 石錐残欠共 | 4箇 |
| 石匙 | 2箇 | 磨石・敲石・凹石 | 268箇 |
| 石皿残欠共 | 27箇 | 砥石 | 6箇 |
| 石錘 | 1箇 | 三脚石器 | 6箇 |
| 板状石器 | 3箇 | 剥片石器 | 10箇 |
| 石製垂飾 | 3箇 | 石棒残欠共 | 7箇 |
| 軽石製浮子 | 1箇 | 石製三角壺 | 1箇 |
| 穿孔石製品 | 2箇 | | |

附1、ベンガラ塊

8点

文化庁文化財保護部美術工芸課では、本国宝について『国宝 新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器 指定目録』の中で以下のように説明している。

笹山遺跡は、十日町市笹山野球場などの建設事業に伴い発掘調査された。調査は、十日町市教育委員会によって昭和55年から昭和60年まで行われた。遺跡は、信濃川右岸段丘上の標高、170mから180mの緩やかな傾斜面に立地する。

遺跡の規模は、約30,000㎡におよび、縄文時代中期の大集落であることが判明した。遺構は、

112軒の住居跡をはじめ、多数の埋甕・土壇が発見されている。出土遺物は多種多様で量も多く安定した集落であることを推定させる。

本遺跡を特徴づける遺物は、20箇体まとまって出土した火焰形土器である。その内訳は「鶏頭冠形」と称されるもの14箇、「王冠形」と称されるもの6箇であるが、これほどまとまって火焰形土器が出土した例は希有である。

在地の土器である火焰形土器の他に東北・中部高地・北陸と各地の器形や文様構成の影響を受けた土器も存在する。このような土器の様相は当該地域の特色をよく示している。土製品は土偶・耳飾り・円盤・三角壺が出土している。土偶34箇のうち、29箇は三角形の小形土偶でこの地域の土偶の特徴を示している。また、三角壺は装飾品と考えられているものであるが、用途については不明である。同形態の石製のものも存在している。三角壺もこの地域・時期に出現する特徴的な遺物である。石器・石製品では、打製石斧・磨石類が極めて多く、石鏃類が少ないことが本遺跡の特徴としてあげられる。また、三脚石器・板状石器も用途・機能を明らかにしえないが、本地域に特徴的な石器である。

縄文時代を代表するといわれる火焰形土器が今までになく質・量ともに豊富であり、製作された時期・地域の集落のあり方、生活状況を知るうえでも極めて学術的価値の高いものである。重要文化財に指定された出土品のうち、本遺跡を特徴づける深鉢形土器57点を抽出し、国宝の指定を提案するものである。

(2)国宝指定記念事業について

平成11(1999)年7月3日(出)、火焰型土器をはじめとする笹山遺跡出土品の国宝指定に伴う記念式典・講演会・祝賀会がクロステンにおいて開催された。

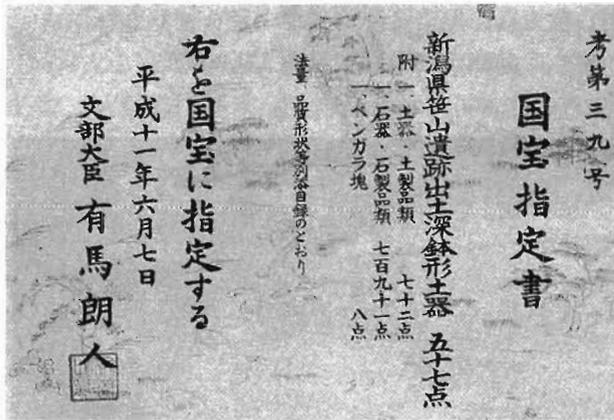


写真2 国宝指定書「笹山遺跡出土品」(考古資料第39号) 記念式典 (13:30~15:00)

内定後ただちに、記念事業の準備にとりかかったが予算は6月補正ということで当初はまったくゼロであった。また、予算より前に記念事業を市のどこが担当するかということも大きな問題であった。検討の結果、結局振り出しに戻り、記念式典・講演会・祝賀会の3本とし、博物館が担当することになった。祝賀会はこれまでの慣例もあり、博物館友の会に主催をお願いし、全面的な協力を仰ぐことになった。そんな折、十日町市文化協会連合会、十日町法人会から思いがけない支援がいただけることになり、きびしい予算のなか本当に助かった。一方で、県内初の国宝ということで、県も記念事業を市と一緒に主催してもらえるものと期待していたが、なかなか難航し、幾度か懇願するも後援のみに止まった。しかしながら、当日は白川代議士をはじめ多くの方のご臨席を賜わり盛大に祝福をしていただいた。

〔記念式典次第〕

- | | |
|------|----------------|
| 開 式 | 司会・進行 (広田歩・阿部) |
| 式 辞 | 本田十日町市長 |
| 知事挨拶 | 平山新潟県知事 |
| 来賓挨拶 | 白川代議士・梁取県議会議長 |
| 来賓紹介 | 吉川・大淵両代議士他11名 |
| 祝電披露 | 梅原名誉館長・高鳥代議士 |
| 経過報告 | 山田館長 |
| 閉 式 | 高橋市議会議長 |
| 国宝紹介 | 阿部副館長 |

記念式典終了後、国宝紹介ということで、調査を担当した阿部がスライドを使い、発掘調査状況と出土品を解説した。



写真3 国宝指定記念式典 式辞 (本田市長) 記念講演会 (15:00~16:20)

休憩の後、引き続いて記念講演会に移った。講師の選定は、県内初の国宝で縄文文化で、火焰型土器で、しかも地域の活性化に積極的な先生となると、長岡市出身の国学院大学教授・小林達雄先生が最適ということで、日々多忙な日程をなんとか調整していただいた。演題は「越後・新潟・火焰型土器のクニ」であった。

小林教授は「この地域は、東北・信州・北陸など他の文化を知る位置にあり、その越後・新潟・縄文人がこのとてつもない土器を生んだ」と独特の地域性を強調し、また「この土器を私たちの原風景に組み込むことが求められる」と語った。最後に「越後・新潟・火焰型土器のクニは津南町一・中里村一・十日町市一・小千谷市一・長岡市一・新潟市にいたる縄文文化の国のシンボルとして、これを共通の財産として共同で活用する壮大なロマン実現の道を早急に見つけ出してほしい」と結んだ。この講演会には 447人の参加者があり、中ホールには入り切れず、ロビーにモニターを設置して対応した。



写真4 国宝指定記念講演会 小林達雄先生

記念祝賀会（16：30～18：00）

記念講演会の後、大ホールにおいて記念祝賀会が開宴され、1時間半という短い時間であったが、大盛況のうちに終了した。この祝賀会には、関係者をはじめ282人の参加者があった。市内の小学生による「笹山縄文太鼓」（中条小）・「十日町大太鼓火焰ばやし」（十日町小と西小）・「赤倉神楽」（赤倉小）が花を添えた。

〔祝賀会次第〕

| | |
|---------|---------------|
| 開 会 | 司会・進行（三輪満雄） |
| プロローグ | 十日町大太鼓 |
| 開 会 | 南雲博物館友の会長 |
| 挨拶 | 本田十日町市長 |
| 来賓挨拶 | 高鳥代議士・南雲川西町長 |
| 乾 杯 | 尾身県議会議員 |
| アトラクション | 笹山縄文太鼓・赤倉神楽 |
| スピーチ | 竹内市文化財保護審議会会長 |
| 天神囃子 | 福島中条地区振興会副会長 |
| 万歳三唱 | 渡辺教育委員長 |
| 閉 会 | 佐野市文化協会連合会長 |



写真5 国指定記念祝賀会 笹山縄文太鼓(中条小学校)
(3)記念特別展について

火焰型土器をはじめとする笹山遺跡出土品 928点の国指定と、十日町市博物館開館および同友の会設立20周年を記念して、「縄文の美パートⅡ―火焰型土器の世界―」と題する特別展を開催した。

火焰型土器は、新潟県の信濃川中流域を中心とした地域で集中的に出土する縄文芸術を代表する土器の一つで、縄文時代の中期中葉に出現し、そして突如として姿を消したまさに「縄文の華」といえる土器である。本展では、笹山遺跡をはじめ市内出土の

火焰型土器を一室に集めたほか、長岡市馬高遺跡出土の「火焰土器」（重要文化財）や群馬県北橋村の火焰系土器なども展示した。

また、特別展に合わせ、『図録 笹山遺跡一国宝指定 笹山遺跡出土品のすべて―』を刊行した。

なお、期間中の入館者は大人5,809人、小人1,841人の合計7,650人であった。



写真6 国指定記念特別展―火焰型土器の世界

〔平成11年度夏季特別展 開催要項〕

1. 名 称 「国指定記念特別展 縄文の美パートⅡ―火焰型土器の世界―」
2. 期 間 平成11年8月21日(土)～10月10日(日)
3. 入館料 大人400円 団体300円
小・中学生無料
4. 会 場 十日町市博物館 2階特別展示室
5. 趣 旨 前掲のとおり
6. 構 成 ①火焰型土器の出現
②火焰型土器の隆盛
③火焰型土器と周辺地域の土器
④火焰型土器の消滅
7. 借 用 長岡市馬高遺跡出土品（重文・近藤篤史氏蔵）、長岡市中道遺跡出土品・外新田遺跡出土品（長岡市立科学博物館蔵）、津南町道尻手遺跡出土品（中澤幸男氏蔵）、北橋村道訓前遺跡出土品（北橋村教育委員会蔵）
8. 備 考 ポスター 700枚を全国の博物館、資料館、教育委員会などに送付
県内および関東圏のJRの主要駅やほくほく線車内などにポスター掲示
解説案内ボランティアを配置

(4)国宝指定までの経過とその後

1979（昭和54）年

- ・十日町市博物館がオープンする（4/27）

1980（昭和55）年

- ・市道造成に伴い笹山遺跡の第1次発掘調査が行なわれる（B区東側・市道史跡公園線）

1981（昭和56）年

- ・市営野球場の造成に伴い、第2次調査が行なわれる（A・B区東側 野球場、C区 市道笹山線）

1982（昭和57）年

- ・第3～5次調査が行なわれる（A・B区西側 野球場、B区東側、D区）。火焰型土器（国宝指定No.1）がD区から出土する（7/8）

1984（昭和59）年

- ・市民スポーツハウスの造成に伴い、第6次調査が行なわれる（E区 スポーツハウス、特設区）

1985（昭和60）年

- ・市営陸上競技場の造成に伴い、第7次調査が行なわれる（J～L区、P～R区 陸上競技場）

1987（昭和62）年

- ・市教育委員会の社会教育課に文化財係が置かれる（4/1）

1989（平成元）年

- ・博物館開館および同友の会設立10周年記念祝賀会が開催される（5/24）

1990（平成2）年

- ・市教育委員会に文化財課が新設される（4/1）
- ・笹山遺跡出土品一括が市指定有形文化財に指定される（2/22）

1991（平成3）年

- ・笹山遺跡出土品 918点が県指定有形文化財に指定される（3/29）
- ・博物館考古展示室がオープンする（5/7）
- ・記念講演「縄文の芸術と文化」梅原猛氏（10/19）

1992（平成4）年

- ・笹山遺跡出土品 928点が国重要文化財に指定される（6/22）
- ・記念講演会および祝賀会が開催される（7/4）
記念講演「縄文芸術にせまる」小島俊彰氏
- ・火焰型土器（指定No.1・6）がワシントンD.C.の「古代の日本展」に出展される（8/9～11/2）
- ・雪文化3館提携が結ばれる（11/21）
- ・笹山遺跡（遺存地の大半）が市指定文化財（史跡）に指定される（12/3）

1994（平成6）年

- ・博物館の常設展示替がオープンする（10/8）
- ・越後あんぎんシンポジウムが開催される（11/12）
記念講演「縄文のこころ」宗左近氏

1996（平成8）年

- ・秋季特別展「縄文の美—火焰土器の系譜—」が開催される（9/28～10/27）
記念講演「火炎土器の系譜」今福利恵氏（9/28）
- ・火焰フォーラムと縄文の夕べが開催される（10/12・13）。記念講演「縄文を語る」高橋克彦氏

1997（平成9）年

- ・火焰型土器（指定No.1）が小学6年生の歴史の教科書に掲載される
- ・十日町市史刊行祝賀会が開催される（9/28）

1998（平成10）年

- ・『笹山遺跡発掘調査報告書』が刊行される（9/30）
- ・火焰型土器（指定No.1・6・15）がパリの「縄文展」に出展される（9/29～11/28）

1999（平成11）年

- ・笹山遺跡出土品特設展示がオープンする（4/16）
- ・笹山遺跡出土品深鉢形土器57点（附を含め 928点）が国宝に指定される（6/7）
- ・梅原猛氏が博物館名誉館長に就任する（6/7）
- ・国宝指定記念式典、記念講演会および祝賀会が開催される（7/3）。記念講演「越後・新潟・火焰型土器のクニ」小林達雄氏
- ・国宝指定記念特別展「縄文の美パートⅡ—火焰型土器の世界—」が開催される（8/21～10/10）
- ・『図録 笹山遺跡』が刊行される（8/21）
- ・「国宝館・火焰の都計画策定委員会」が発足する（9/1）。委員長に國學院大学の小林達雄氏が就任
- ・国宝火焰型土器3点が東京国立博物館の平成館常設展示に出展される（10/12～）
- ・博物館開館および同友の会設立20周年記念式典と祝賀会が開催される（11/23）
記念講演「日本人らしく生きる」伊藤文吉氏
- ・国宝館・火焰の都計画策定委員会が市長に計画概要を中間答申する（12/3）

2000（平成12）年

- ・国宝火焰型土器（指定No.1ほか4点）が東京国立博物館の「日本国宝展」に出展される（3/25～5/7）

（阿部恭平・高橋アキ）

2. 新指定文化財—平成11年度の状況

平成11年度の市指定文化財の候補物件は、平成5年度からの懸案であった笹山遺跡（平成4年度文化財指定・史跡の追加分）、前年度からの継続物件である幅上遺跡出土品一括に、牧脇観音堂（新宮第2所在）聖観音立像1軀、検地帳（太子堂・北鑑坂・六箇・大黒沢・小黒沢）を加えた4件であった。

この内、笹山遺跡は地権者交渉を縁家を介して行ったほうがよいという中条地区振興会の意向もあり、1名の地権者との面談のみに止まった。また、新宮の牧脇観音堂の聖観音立像は、再実見調査等が未了となったため、次年度以降に先送りし、検地帳はまず、最も古い太子堂村検地帳を第一の候補に取り上げた。結局、当初の4件の内、太子堂村検地帳と幅上遺跡出土品の2件が、平成12年3月16日の文化財保護審議会で審議され、指定答申が出された。これを受けて、3月17日の市教育委員会において承認され、同21日の告示により市文化財に指定された。これにより、市内に所在する指定文化財は、国宝1件、重要有形民俗文化財2件、県指定文化財7件、市指定文化財31件の合計41件となった。そのほかに、県選定保存技術保持者認定1件がある。次に新指定文化財の概要を紹介する。

太子堂村検地帳4点（有形文化財 古文書）

太子堂村検地帳は、①永禄・天正期ころと推定されるもの、②文禄4～慶長2年頃のもの、③慶長3年検地帳と目されるもの、④正保4年の検地帳の4点からなる。④以外は、落丁や破損があり、年月・検地役人の項が見られず、本紙・写本の識別も定かにでき得ないが、貴重な資料である。

①は、②・③の名請人との関連から考察して、天正年間の可能性が高い。何回か綴じ直しをしていて、綴じ込みの順序性の齟齬や落丁も見受けられる。千（仙）之山・ぎやうじ（行寺）が含まれていることから、当時の知行主が同一人物だったように考察される。表紙・裏表紙を欠き、袋綴じ6枚である。

②は、年月の記載を欠くが、『十日町市史』掲載の文禄5年・慶長2年の3点の検地帳と形式が一致することから、上杉景勝の検地奉行河村彦左衛門によるものとみられ、表紙に「吉田源三分」とある。これは、太子堂村が上杉景勝の家臣吉田の知行地であったことを示している。墨付きの最後の丁と裏表紙を欠き、袋綴じ6枚である。

③は、表紙に「多いしたう村」とある。検地年月

の記載を欠くが、市史掲載の6点と記載形式が一致することから、慶長3年の検地帳とすることができる。慶長3年の検地は、堀秀治の越後入封に伴い、7月から9月にかけて行われた。この年の検地では、どの村も当荒と記載する田畠が目立って多いが、太子堂村検地帳でも13筆の当荒が見られる。墨付き最後の丁を欠き、表紙ともに袋綴じ9枚である。

④は、表紙に「正保四年 丁亥ノ霜月十六日、大井子道村御検地帳、宗百姓中」とあり、末尾に四日町村・新佐村・中条村村役人各2名の奥書が見られ、三か村の村役人立合いのもとで行われたことがわかる。この年の検地は、妻有郷の他村には見られない検地で、支配役人に代わり、近村の村役人立合という珍しい形態をとっている。慶長検地以来50年を経過し、田の開発とともに畑を田に転換する畑田成も進んでいることが窺える。そのための検地の可能性が高い。袋綴じ26枚である。



写真7 太子堂村検地帳

①永禄・天正期頃 ②文禄4～慶長2年頃 ③慶長3年 ④天保4年
(1588～1591) (1595～1597) (1598) (1647)

4点におよぶ検地帳により、中世末期より江戸前期にわたる太子堂村の耕地の変遷、住人の動態と生活のあり様を概観することができ、関連している仙之山村・行寺村をはじめ、当時の妻有郷村々のあり様を類推する手がかりとすることもできる。保存状態は良好ではないが、希少性の高い資料として将来に向け、大切に保存する必要性が認められる。

付記：太子堂村検地帳の文化財指定にあたっては、所有者（寄託者）若井基八郎氏のご快諾をいただき、また、本市文化財保護審議会委員・須藤重夫氏からは、本資料の調査・研究および議案書の作成にいたるまでご尽力をいただいた。記してお礼申し上げる。

（阿部恭平）

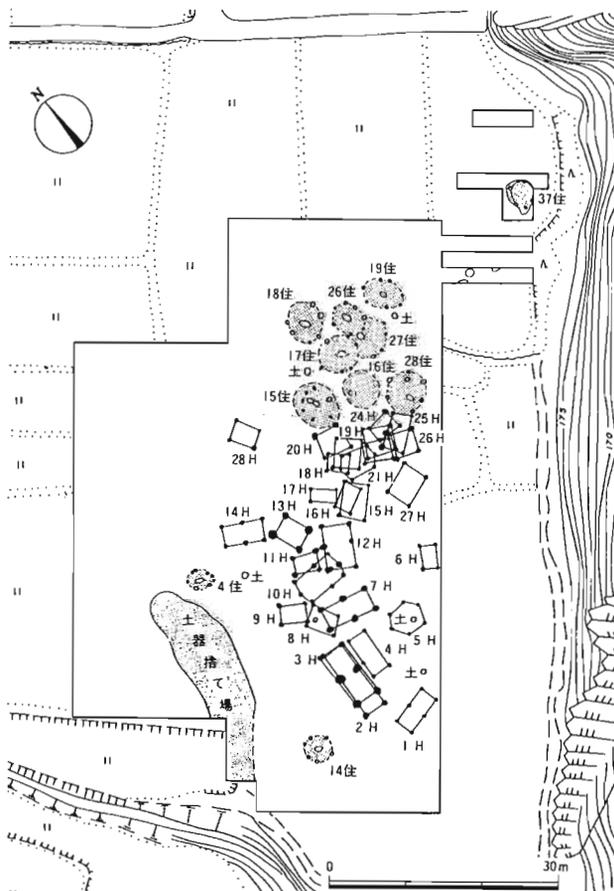
幅上遺跡出土品一括（有形文化財 考古資料）

幅上遺跡は、十日町市大字南鏡坂字幅上に所在する。遺跡は、信濃川左岸の河岸段丘上に立地し、標高は176mである。平成2年、吉田南部地区県営ほ場整備事業に伴い、市教育委員会により発掘調査が行われた。約5,500㎡の範囲が調査され、縄文時代中期の集落跡が発見されている。

検出された遺構は、掘立柱建物跡30棟、竪穴住居跡11軒、袋状土坑7基などである。これらの遺構は、直径約60mの環状もしくは馬蹄形に配置されている。掘立柱建物跡は内側、竪穴住居跡は外側にまとまり、両者の分布域は異なる。

掘立柱建物跡は、4～8本の柱穴をもつ長方形を呈する建物であり、炉跡をもたないことから、高床式住居であったと推定される。桁行が4～5m前後のものが多くみられるが、中には7～8mを測る大型のものも存在する。柱穴の大きさは、直径25～40cm、深さ30～50cmである。一方、竪穴住居跡は、柱穴が直径3.5～6mの円形もしくは楕円形に巡り、中央に石組炉をもつ。袋状土坑は、貯蔵穴であり、直径0.5～1.2mほどの円形を呈する。

掘立柱建物跡と竪穴住居跡が分布域を別にしてい



第1図 幅上遺跡の遺構配置図

る点と大型掘立柱建物跡の存在から、両者が使用されていた時期の差、身分の差、使用目的もしくは機能の差などが想定できる。

出土した遺物には、土器、土製品、石器などがある。土器は、前期後葉～後期前葉のものが出土しているが、主体を占めるのは中期前葉～中葉であり、これまでに48個体の土器が復元されている。これらの土器には、火焰型・王冠型土器など当地方特有の土器のほか、関東地方の五領ヶ台式、阿玉台式土器、北陸地方の新保・新崎式土器、東北地方の大木式土器、信州地方の焼町式土器など周辺地域から器形や文様の上で影響を受けた土器もある。また、高坏や器台、有孔鏝付土器といった特殊な器形の土器も見られる。



写真8 幅上遺跡出土の土器

これらの中でも、火焰型土器と王冠型土器の各1個体は、残存率の高い良好な資料であり、器台形土器1個体は、類例が稀少である。

土製品は、耳飾、ミニチュア土器、土製円盤、土偶、三角形土偶、十字形土偶などがある。土偶には、胴部と脚部がソケット式に組み合わされたものが見られる。三角形土偶の出土量の多さと、類例の少ない十字形土偶が目される。

石器は、石鏃、石槍、石匙、石錐、搔器、打製石斧、磨製石斧、三脚石器、板状石器、浮子、石錘、磨石類、石皿、砥石などがあり、狩猟具・加工具・調理具といった縄文時代の道具一式が揃っている。

本遺跡の出土品は、当地方の縄文時代文化を研究する上で貴重であり、特に火焰型・王冠型土器と周辺地域から影響を受けた土器は、縄文時代における当地方と他地域との文化的交流を解明する上で重要な資料である。

参考文献：十日町市 1996 『十日町市史』資料編2 考古 (菅沼 亘)

3. 指定文化財の保存・管理

指定文化財標柱設置事業

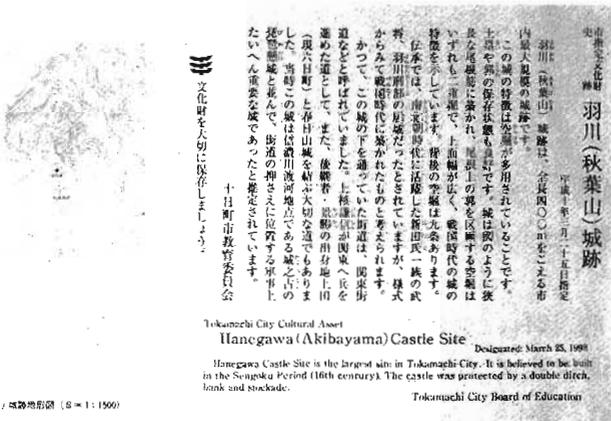
文化財に指定された物件について、その存在を明確にし、広くその存在を知らせる意味で、文化財標柱を設置している。対象は屋外の指定物件で、建造物、史跡、名勝、天然記念物などである。標柱は木製角材のため、数年ほどで腐朽してしまい、随時立替える必要がある。今年度は、次にあげる2件の天然記念物、史跡について新設、立替えを実施した。

新設 天然記念物 入山のカスミザクラ

立替え 史跡 笹山遺跡

指定文化財説明板設置事業

標柱と同様に、屋外の指定物件について順次設置している。指定文化財の近くに設置し、その文化財の概要などを記して見学者の便をはかるとともに、保護意識を育むことを目的としている。今年度は史跡の羽川（秋葉山）城跡に設置した。なお、去年の智泉寺山門と同様に英文を併記した。



指定文化財保存管理委託事業

市教育委員会では、指定した文化財の保存・管理のため、所有者・管理者に対し定額の補助を行なっている。補助の対象となる文化財は清掃、雪囲い、除雪などが必要な屋外の物件および無形民俗文化財のうち伝承にかかる内容のみである。なお、平成10年度から委託料と補助金に二分されている。

(1)指定文化財管理委託料

| ＜県指定文化財＞ | | (単位：円) |
|----------|-------------------|--------|
| 史跡 | 大井田城跡 | 61,200 |
| 天然記念物 | 小貫諏訪社の大スギ | 18,000 |
| ＜市指定文化財＞ | | |
| 建造物 | 智泉寺山門 | 18,000 |
| 建造物 | 観泉院山門 | 18,000 |
| 史跡 | 四日町神宮寺境内地 及び山林 | 61,200 |

| | | |
|-------|-------------------------|---------|
| 史跡 | 大黒沢正平在銘梵字碑 | 18,000 |
| 史跡 | 鉢の石仏 | 61,200 |
| 史跡 | 羽川（秋葉山）城跡 | 61,200 |
| 名勝 | 積翠荘 | 36,000 |
| 天然記念物 | 姿箭放神社の大ケヤキ | 18,000 |
| 天然記念物 | 高龍神社社叢 | 61,200 |
| 天然記念物 | 安養寺松尾神社の大スギ | 18,000 |
| 天然記念物 | 安養寺円通庵の三本スギ | 18,000 |
| 天然記念物 | 枯木又龍王池とカスミ ザクラ及び三本スギ | 36,000 |
| 天然記念物 | 入山のカスミザクラ | 18,000 |
| (合計) | | 522,000 |

(2)指定文化財管理補助金

＜市指定文化財＞

| | | |
|------|----------------------------------|---------|
| 無形民俗 | 赤倉神楽 | 30,000 |
| 無形民俗 | 大の坂 | 30,000 |
| 無形民俗 | 新保広大寺節 | 30,000 |
| 無形民俗 | 新水のドウラクジン（道楽神） とハネツケエーシ（羽根返し） | 30,000 |
| (合計) | | 120,000 |

文化財保存修理事業

県指定文化財の建造物「神宮寺観音堂・山門」茅屋根葺替工事は6年計画で平成8年度に着手した。第4年次にあたる11年度の事業概要は以下の通りであり、これまでの収支決算を表2に示した。なお、この事業に携わっている十日町茅葺職人4名が平成12年3月に新潟県選定保存技術の指定を受けた。

| | |
|------|--------------------------|
| 工事名 | 神宮寺山門茅屋根南側葺替工事 |
| 事業主体 | 神宮寺 |
| 請負者 | 齋木春治ほか茅屋根職人 |
| 工事期間 | 平成11年6月1日～7月25日 |
| 工事費 | 総額 3,000,000円 |
| | (内訳) 新潟県 1,000,000円 (定額) |
| | 十日町市 750,000円 (1/4) |
| | 神宮寺 1,250,000円 (1/4) |

伝統民俗芸能等後継者育成事業

市指定の無形民俗文化財「赤倉神楽」の活動支援と後継者育成を目的として県と市が500,000円ずつ計1,000,000円を同保存会に補助した。本事業は3ヶ年継続事業で、平成11年度は最終年次にあたる。補助金は伝承教室・発表会の開催、衣裳の購入、記録資料の作成などに費されており、これまでの収支決算を表3に示した。今後、どのような形で支援していくのか大きな課題である。(石原正敏)

表2 神宮寺観音堂・山門の文化財保存修理事業にかかる収支決算書

(単位：円)

| 収入の区分 | 平成8年度 収入済額 | 平成9年度 収入済額 | 平成10年度 収入済額 | 平成11年度 収入済額 | 備 考 |
|-------|---------------|---------------|----------------|----------------|--------|
| 県補助金 | 1,400,000 | 700,000 | 1,500,000 | 1,000,000 | |
| 市補助金 | 700,000 | 700,000 | 750,000 | 750,000 | |
| 受益者負担 | 701,718 | 1,403,415 | 753,172 | 1,250,000 | 神宮寺負担分 |
| 合 計 | 2,801,718 | 2,803,415 | 3,003,172 | 3,000,000 | |

| 支出の区分 | 平成8年度 支出済額 | 平成9年度 支出済額 | 平成10年度 支出済額 | 平成11年度 支出済額 | 備 考 |
|-------|---------------|---------------|----------------|----------------|-----|
| 茅等材料費 | 418,718 | 267,095 | 516,852 | 720,000 | |
| 手 間 賃 | 2,313,000 | 2,447,880 | 2,391,320 | 2,280,000 | |
| 借 用 料 | 30,000 | 50,000 | 55,000 | 0 | |
| 運 搬 費 | 40,000 | 38,440 | 40,000 | 0 | |
| 合 計 | 2,801,718 | 2,803,415 | 3,003,172 | 3,000,000 | |

表3 赤倉神楽の伝統民俗芸能等後継者育成事業にかかる収支決算書

(単位：円)

| 収入の区分 | 平成9年度 収入済額 | 平成10年度 収入済額 | 平成11年度 収入予定額 | 備 考 |
|-------|---------------|----------------|-----------------|--------|
| 県補助金 | 1,280,000 | 500,000 | 500,000 | |
| 市補助金 | 1,280,000 | 500,000 | 500,000 | |
| 受益者負担 | 407,577 | 110,250 | 0 | 保存会負担分 |
| 合 計 | 2,967,577 | 1,110,250 | 1,000,000 | |

| 支出の区分 | 平成9年度 支出済額 | 平成10年度 支出済額 | 平成11年度 支出予定額 | 備 考 |
|--------------|---------------|----------------|-----------------|------------------------------|
| 伝承教室 | 150,000 | 150,000 | 150,000 | |
| 発 表 会 | 268,030 | 157,000 | 350,000 | 平成10年度の関東ブロック民俗芸能大会は別途県費補助あり |
| 衣装・用具 等購入 | 2,331,547 | 435,750 | 300,000 | |
| 記録・資料 等作成 | 218,000 | 367,500 | 200,000 | |
| 合 計 | 2,967,577 | 1,110,250 | 1,000,000 | |

4. 指定文化財の活用

レプリカを含む資料貸出し状況については、『文化財課年報』1に1996(平成8)年度、『同』3に1997(平成9)・1998(平成10)年度分がまとめられている。1999(平成11)年度分は表4のとおりである。貸出し件数は1996年度が8件、1997年度が5件、1998年度が8件であることから、1999年度の6件は平年並みといえるだろう。しかし、今年度の大きな特徴は東京国立博物館への国宝・笹山遺跡出土品の貸出しが全体の半数を占めていることと、考古資料に貸出しが偏っている点にある。今後は、越後アンギンを含めた民俗資料や歴史資料の活用に向けていかなければならないと考えている。

出版関係への文化財資料(ポジ、ネガ、紙焼き)の貸出し状況については『文化財課年報』2に1996年度分がまとめられている。1997・1998・1999年度

分は表5～9のとおりである。

貸出し件数は1996年度が28件、1997年度が13件、1998年度が25件とやや波はある。しかし、1999年度は38件を数え、増加の傾向にある。過去2年分を1年で達成したことになる。これは、笹山遺跡出土品の国宝指定効果にほかならないであろう。

貸出し先は、歴史・美術図書関係の出版社をはじめ多種多様であるが、ここ数年の特徴として小・中学生用の教科書、資料集、テストなどを扱う出版社の問合せが確実に増えてきている。また、ビデオ、スライドのみならずホームページやデータベースのための貸出しもある。

文化財情報の公開や発信が重要なことはあらためて言うまでもないが、情報の又貸し、無断使用などに対する監視を強めるとともに、情報の保護管理体制の整備を早急に進める必要がある。(石原正敏)

表4 文化財資料の貸出し状況一覧(レプリカを含む、1999.3～2000.3) ※市内貸出しを除く。

| 貸出施設名 | 特別展名 | 貸出資料名 | 貸出期間 | 観覧料 |
|-----------------------|-------------------------|--|-------------------------------|----------------------|
| 岐阜県春日村森の染色工房アトリエの(村立) | 特別展示(ギャラリー) | 市指定文化財・越後アンギンのソデナシ、マエカケ、フクロなど4点、複製品のアンギン編み工具一式、オビなど3点 計7点 | 貸出 3/19～5/31 | |
| 東京都台東区東京国立博物館(国立) | 日本列島60万年展—考古遺物でつづる歴史絵巻— | 国宝・笹山遺跡出土品のうち火焰型土器2点、王冠型土器1点 計3点 | 貸出 10/1～3/31 会期 10/12～3/31 | 一般420円 (団割210円) |
| 長野県更埴市長野県立歴史館(県立) | 考古資料特別公開躍動する縄文土器展 | 市指定文化財・笹山遺跡出土品のうち土器1点、野首遺跡土器6点 計7点 | 貸出 1/6～3/14 会期 1/15～2/27 | 一般300円 (団割200円) |
| 福井県三方町三方町縄文博物館(町立) | 土器の径—縄文ギャラリー— | 市指定文化財・笹山遺跡出土品のうち火焰型土器1点、王冠型土器1点と国宝・笹山遺跡出土品の土器レプリカ3点 計5点 | 貸出 3/22～9/30 会期 4/29～9/30 | 一般210円 (団割160円) |
| 東京都台東区東京国立博物館(国立) | 日本国宝展 | 国宝・笹山遺跡出土品のうち火焰型土器3点、王冠型土器2点 計5点 | 貸出 3/13～5/15 会期 3/25～5/7 | 一般1,300円 (団割950円) |
| 東京都台東区東京国立博物館(国立) | 日本列島60万年展—考古遺物でつづる歴史絵巻— | 国宝・笹山遺跡出土品のうち火焰型土器3点 | 貸出 3/13～9/30 会期 4/1～9/30 | 一般420円 (団割210円) |

表5 出版関係への文化財資料の貸出し状況一覧（実物以外のポジ・ネガ・紙焼き）

1997. 4. 1～1998. 3. 31

| 貸出先出版社名等 | 書籍名・刊行物名 | 貸出資料名 | 区分 | 備考 |
|---------------|------------------------|-------------------------------|------|----|
| 東京書籍(株) | 社会科資料集6年生 生物の世界I A | 縄文ムラの暮らし(秋・冬の一) ススキ | 教材 | 東京 |
| 毎日新聞社 | 国宝・重要文化財大 全 | 浅鉢形土器・石製品類(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (株)秀学社 | 中学生副読本 美術 資料―表現と観賞― | 火焰型土器(笹山遺跡) | 教材 | 大阪 |
| 創元社 | 謎のサルタヒコ | 配石墓の模型(栗ノ木田遺跡) | 一般 | 大阪 |
| 北陸建設弘済会 | けんせつほくりく 11月号 | 冬囲い | 一般 | 新潟 |
| (株)弘済出版社 | ジパング旅仲間 12月号 | 火焰型土器(笹山遺跡)、縄文ムラの 暮らし(冬の一) | 雑誌 | 東京 |
| (株)山川出版社 | 新潟県の歴史(新版) | 越能山都登、一遍上人絵詞伝 | 一般 | 東京 |
| (株)北都 | 新潟遺産 | 火焰型土器(笹山遺跡)、越後アングイン | 一般 | 新潟 |
| 桂書房 | 中・近世の北陸 | 伊達八幡館跡全景 | 一般 | 富山 |
| 国際学友会 | 留学生用教科書 | 越後縮、地機ほか | 教材 | 東京 |
| 日本書籍(株) | 小学国語4年 | 縄文ムラの暮らし(秋の一) | 教材 | 東京 |
| (株)河出書房新社 | 図説 新潟県の歴史 | 火焰型土器(笹山遺跡)、越後アングインほか | 一般 | 東京 |
| 筑紫野市史編さん 室 | 筑紫野市史通史 上巻(原始・古代) | 火焰型土器(笹山遺跡) | 市町村史 | 福岡 |

表6～7 出版関係への文化財資料の貸出し状況一覧（実物以外のポジ・ネガ・紙焼き）

1998. 4. 1～1999. 3. 31

| 貸出先出版社名等 | 書籍名・刊行物名 | 貸出資料名 | 区分 | 備考 |
|---------------------|------------------------|--|----|----|
| NTT開発部 | ホームページ | 火焰型土器(笹山遺跡)、越後アングイン桶な し、縄文ムラの暮らし(秋・冬の一)ほか | 一般 | 東京 |
| 群馬県立歴史博物 館 | 縄文文化の十字路・ 群馬 | 深鉢形土器(笹山遺跡・赤羽根遺跡・ 幅上遺跡) | 図録 | 群馬 |
| (株)ウォーク | ハクビ京都着物学院 生徒向け教材ビデオ | 喜多川歌麿「夏衣裳当世美人」 | 教材 | 東京 |
| 県社教施設情報化 推進実行委員会 | 新潟県博物館協議会 ホームページ | 縄文ムラの暮らし(冬の一)ほか | 一般 | 新潟 |

| 貸出先出版社名等 | 書籍名・刊行物名 | 貸出資料名 | 区分 | 備考 |
|---------------|------------------|---|----|----|
| 神戸市立博物館 | コメはじめ物語 | 縄文ムラの暮らし(秋の一日) | 図録 | 兵庫 |
| (株)光文書院 | 社会科資料集6年生 | 縄文ムラの暮らし(秋・冬の日)ほか | 教材 | 東京 |
| (株)婦人画報社 | 美しいキモノ・秋号 | 越後縮の紋付・袴ほか | 雑誌 | 東京 |
| (株)郷土出版社 | 図説 十日町・小千谷・魚沼の歴史 | 火焰型土器(笹山遺跡)、土器(馬場上遺跡)御用御召の模様、越能山都登、豪雪で陥没した旬街座、明石縮・夏衣裳当世美人ほか | 一般 | 長野 |
| 北橋村教育委員会 | 縄文いのりとうたげ | 深鉢形土器(笹山遺跡・大井久保遺跡)ほか | 図録 | 群馬 |
| ミリオン出版(株) | RAMBLER 2号 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 雑誌 | 東京 |
| 農山漁村文化協会 | 日本農書全集 53 巻 | 越能山都登ほか | 一般 | 東京 |
| (株)吉川弘文館 | 日本民俗大辞典 | コスギ、ドウラクジン焼き | 辞典 | 東京 |
| (株)ウォーク | 日本きもの紀行 | 縄文時代の編布(山王圀遺跡ほか) | 一般 | 東京 |
| (財)高崎市文化事業団 | 美術情報検索システム | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 群馬 |
| 文化庁美術工芸課 | パリ縄文展図録 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 図録 | 東京 |
| (株)エイワークス | 日本の産業遺産データベース | 十日町市博物館外観 | 一般 | 愛知 |
| (株)軌プロダクション | 社会科資料集6年生 | 縄文ムラの暮らし(竪穴の住まい) | 教材 | 東京 |
| (有)DAI工房 | どろんこ遊びで土を科学 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (株)文溪堂 | 社会テスト6年 | 石鏃(笹山遺跡) | 教材 | 岐阜 |
| (株)あかね書房 | テーマで調べる博物館・史跡 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (有)ムック | 歴史の資料 | 縄文ムラの暮らし(竪穴の住まいほか) | 教材 | 東京 |
| 朝日新聞出版局 | 日本の美術遺産百選 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (株)小学館 | 縄文文化の交流と交易 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (株)新潟デザインセンター | あかねいろ Vol.25 | 火焰型土器・王冠型土器(笹山遺跡) | 一般 | 新潟 |
| (株)増進堂・受験研究社 | 学習参考書日本歴史の要点 | 縄文ムラの暮らし(竪穴の住まい) | 教材 | 大阪 |

表8～9 出版関係への文化財資料の貸出し状況一覧（実物以外のポジ・ネガ・紙焼き）

1999. 4. 1～2000. 3. 31

| 貸出先出版社名等 | 書籍名・刊行物名 | 貸出資料名 | 区分 | 備考 |
|--------------|---------------------|-----------------------------------|----|-----|
| (株)小学館 | 21世紀こども歴史館 | 火焰型土器(笹山遺跡)、縄文ムラの暮らし(秋の一日、竪穴の住まい) | 一般 | 東京 |
| (株)学宝社 | 重点リポート24回・学習整理歴史前期 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 教材 | 愛知 |
| (株)オフィスノベント | 棚田・地すべり対策広報冊子 | ドウラクジン | 一般 | 東京 |
| (有)和銅社ほか | 日本人の原風景ソフト | 火焰型土器(笹山遺跡)、越後アングイン | 一般 | 東京 |
| (株)たてき | 歴史データファイル | 縄文ムラの暮らし(竪穴の住まい)ほか | 一般 | 東京 |
| (株)新潮社 | 古代を探検する | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (株)マガジントップ | ブルーガイド新潟・佐渡(改訂版) | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (株)弘済出版社 | 旅の手帳8月号 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 雑誌 | 東京 |
| (株)日本アートセンター | すぐわかる日本の美術 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| (株)新学社 | ワイド版歴史資料集 | 縄文ムラの暮らし(竪穴の住まい) | 教材 | 東京 |
| ミュージアム氏家 | よみがえる縄文人 | 越後アングインのソデナシ、編み工具一式 | 図録 | 栃木 |
| 岡本太郎美術館 | スライド使用 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 神奈川 |
| 十日町土木事務所 | ホームページ | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 新潟 |
| (株)カルダイ | JTBガイド新潟・佐渡 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 宮城 |
| (株)岩波書店 | 日本社会の誕生 —日本の歴史①— | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 東京 |
| 新潟県企画課 | 新潟県立歴史博物館 だより創刊号 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 一般 | 新潟 |
| (株)新潟日報事業社 | にいがたの遺跡 | 火焰型土器(笹山遺跡)、伊達八幡館跡全景 | 一般 | 新潟 |
| 大阪書籍(株) | 中学社会歴史分野 | 火焰型土器(笹山遺跡)、縄文ムラの暮らし(竪穴の住まい) | 教材 | 大阪 |
| (有)ハユマ | カラー版歴史の資料 | 縄文ムラの暮らし(竪穴の住まい) | 教材 | 東京 |
| (株)教育同人社 | 社会科資料集 | 火焰型土器(笹山遺跡) | 教材 | 東京 |

| 貸出先出版社名等 | 書籍名・刊行物名 | 貸 出 資 料 名 | 区 分 | 備 考 |
|------------------|--------------------|--------------------------------|-----|-----|
| (株)平凡社 | 月刊太陽 1月号 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 一 般 | 東 京 |
| (株)創林社 | FSA NEWSNo.57 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 一 般 | 東 京 |
| (株)新書館 | 縄文人の文化力 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 一 般 | 東 京 |
| JTBるるぶ | るるぶ情報版新潟・佐渡 | 火焰型土器 (笹山遺跡)、縄文ムラの暮らし (秋の一日) | 一 般 | 茨 城 |
| (株)リミューズ | リミューズ1月10日号 | 鳥追い | 一 般 | 東 京 |
| 新潟県教育庁総務課 | 新潟県教育月報1月号 | 火焰型土器 (笹山遺跡)、国宝記念事業・特設展示状況ほか | 一 般 | 新 潟 |
| 明治図書出版(株) | 中学歴史資料集 | 縄文ムラの暮らし (秋の一日、竪穴の住まい) | 教 材 | 東 京 |
| 新潟県教育庁総務課 | 図説 新潟県教育 20世紀のあゆみ | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 一 般 | 新 潟 |
| (株)帝国書院 | 社会科 中学生の歴史 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 一 般 | 東 京 |
| 日本書籍(株) | 中学社会歴史的分野 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 教 材 | 東 京 |
| 長野県立歴史館 | 躍動する縄文土器衣の移り変わり | 火焰型土器ほか (野首遺跡・笹山遺跡)、冬の装い、編布を編む | 図 録 | 長 野 |
| (株)岡山福武書店 | 学力診断問題 中1 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 教 材 | 岡 山 |
| (株)フォーバイフォーマガジン社 | オフロードエクスプレス 3月号 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 雑 誌 | 東 京 |
| (株)淡交社 | 淡交ムック やきもの入門 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 一 般 | 京 都 |
| 東京国立博物館 | 日本国宝展 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 図 録 | 東 京 |
| 三方町縄文博物館 | 常設展示図録ほか | 火焰型土器・王冠型土器 (笹山遺跡) | 図 録 | 福 井 |
| 十日町郵便局 | ホームページ十日町電子郵便局 | 雪あそび | 一 般 | 新 潟 |
| (有)映像企画 | 東北電力企画製作ビデオ「豊穡の縄文」 | 火焰型土器 (笹山遺跡) | 一 般 | 宮 城 |

(作表：石原正敏・村山恵美子・村竹修)

[追記]

上記以外に、パンフレット、ポスター、チラシ、会報、名刺、グッズなどを作成するためにポジ、ネガ、紙焼きなどを貸出している。なお、出版社等の依頼を受けて、代理店が問合せをしている場合は、可能な限り出版社名を表記している。

Ⅲ. 埋蔵文化財

1・発掘調査概要および1次整理事業

十日町市における平成11年度の遺跡調査件数は10件であった。内訳は、確認・本調査6件、試掘調査等4件である。それらは、県営ほ場整備事業、区画整理事業、棚田地域等緊急保全対策事業、中山間地総合整備事業、市道高山太子堂線道路改良事業などの開発行為に伴う事前調査として4月～12月にかけて実施し成果を上げた。それらは、今まで知られていなかった地域の歴史を紐解く貴重な資料になると思われる。

谷地A遺跡（下条3丁目）

谷地A遺跡は、特別養護老人ホーム三好園の西側に位置する。標高は、107～109mで隣接して梅鉢川が流れる。昨年度は、三好園の増築に伴い本年度発掘調査区の南に隣接する箇所を確認調査を約300㎡実施し、平安時代～中世にかけての遺物を発見している。

本年度は県営ほ場整備事業上組工区に伴い4月下旬～7月下旬の約3ヶ月の間に約3,100㎡の範囲（主に畑部分）を調査した。その結果、平安～中世にかけての集落跡の一部を検出した。

出土遺物は、平安時代の土師器、須恵器、中世の陶磁器類のほか縄文土器や打製石斧も発見されている。土師器には、墨書土器が1点あり市内で新宮の柳木田遺跡、伊達の河原田遺跡、八幡の社畑遺跡に次いで4例目の発見になった。また、その形や作成技法などから北陸系・信州系・群馬系の土師器が見られる。杯底部のロクロ盤からの切り離し痕をみると回転糸切り技法によるものがやや多いと思われる。陶磁器類は、珠洲焼、青磁、白磁などが若干出土している。縄文土器は、縄文中期のものである。

検出した遺構は、土坑、井戸跡、柱穴等が多数あるが掘立柱建物としてまとまるのは2棟である。井戸跡からは、木製の井戸杵、紡錘車、椀が出土しているが、時代を特定できる土器を伴わないため、いつ頃使用されたかは現時点では不明であるが、今後木製品の化学分析などにより解明できればと願っている。因みに井戸の深さは確認面から1～2.5mである。2年にわたる調査の結果、遺物の出方などから谷地A遺跡は、三好園を中心にして南方（平成10年確認調査地区）に中世を主体とした集落が、西方

（今年度発掘調査地区）に平安時代を主体とした集落が営まれていたことが考えられる。



写真10 谷地A遺跡の出土遺物

中新田A遺跡（下条2丁目）

中新田A遺跡は、栄橋の北東約100m、信濃川の右岸段丘上に位置する。県営ほ場整備事業上組工区に伴い5月上旬～9月中旬の約4ヶ月の間に約4,400㎡の範囲を調査した。その結果、縄文時代の集落跡の一部を検出した。

出土遺物は縄文土器、石器などの他若干陶磁器類も出土している。縄文土器は、その紋様や器形などから縄文時代前期終末から中期中頃の北陸系の土器が主体を占めている。また、県内には珍しいクマの頭部をデホルメした獣面把手が2対出土している。石器は、打製石斧、石鏃、石錘、磨石、石皿などが発見されている。

検出した遺構は、竪穴住居跡1棟、土坑、柱穴、焼土跡、風倒木痕などがある。住居跡は、長軸4m、短軸3mの不整形で内側に柱穴が巡っている。本遺跡の周辺には、寿久保遺跡、野首遺跡などの集落跡があり、それらの遺物の整理を進め比較検討できればより明確に下条地区における縄文時代を明らかにすることができるであろう。



写真11 中新田A遺跡発掘作業風景

泥木遺跡（東枯木又）

泥木遺跡は、市内中条丁826番ほかに所在する。東枯木又部落の北東約500m、川岸沢を挟んだ対岸の台地上に位置し標高は445m～450mである。現況は水田および畑地である。本遺跡の調査は棚田地域緊急保全対策事業（農道4m×50m現道の舗装拡張）に伴う発掘調査である。本遺跡の周辺には、西方約1,8kmに女池遺跡（縄文時代中期）があるのみで、周知の遺跡は存在しない。今後、中条・下条山間地は、踏査や試掘などの調査を行い工事計画の前提資料作成が急務である。

本遺跡は昭和30年頃より遺物が採集され、昭和44年に桑畑造成工事中に土器などが出土したことから、当重益郎氏（当時：飛渡第二小学校枯木又分校教諭）により緊急発掘調査が行われ、石組炉4基、配石遺構1基などが検出。また、縄文時代中期中頃から末頃の土器（大木9式など）、石器が出土している（当重益郎『発掘調査記録 泥木遺跡』昭和44年・当重益郎『出集編集委員会編『不利な条件を有利な条件へ』平成11年に再録）。今回の調査地点は、遺跡の西側部分、昭和44年調査地点付近にあたる。

遺跡登録は昭和48年12月3日付けで島田靖久氏により行われている。

調査は、平成12年6月20～30日に現地確認・器材点検・現地踏査を行い、農道部分という限られた中での発掘の方法、配土など具体的に計画し、7月1日に器材やテントなどを搬入し、調査を開始した。その結果、縄文土器、石器、陶磁器類などを発見した。土器は、火焰型土器などと伴出する縄文時代中期の当地方特有の在地系土器のほか、後期の注口土器など多様である。石器は打製石斧・凹石・石皿・剥片類が発見されている。

遺構では柱穴や焼土痕が検出されたが、住居跡などは発見されなかった。しかし、当重氏の報告や今回の踏査や調査の成果によれば、本遺跡は、立地的に水資源に乏しいが比較的規模の大きいキャンプ跡であることが推測できる。集落とも考えられるが、2月末の東枯木又の積雪は、今年、有に3mを超えていてとても当時1年を通じて生活できるとは思われない。

一次整理

試掘・確認・本調査で出土した遺物を水洗・乾燥一注記一分類・整理一接合・復元などの工程で整理

する作業を一次整理と位置づけている。

今年度の一次整理作業は、国・県の補助事業で進めている試掘・確認調査、県営ほ場整備事業に伴う発掘調査、棚田地域等緊急保全対策事業に伴う確認調査による出土遺物の整理作業などを中心に進めている。また、経済政策の一環として、緊急雇用対策事業が今後3年間継続されることから平成8～9年にかけて発掘調査を終了し未整理状態の野首遺跡・寿久保遺跡の出土遺物の1次整理を進めて行くことができるようになった。ただ、あまりにもその出土量が膨大であるため、とても3年間では終わらないのが現状である。

ここ十数年、市内の平場では大規模開発が行われ、その都度工事関係者や地元の理解と協力のおかげで発掘調査を進めてきた。その数は膨大であり、盛土保存として残ったもの、考古学的価値が高いにも関わらず調査による記録保存後消滅したものと様々である。埋蔵文化財は市民共有の財産であり、それは将来に渡っても変わらない不変なものである。その意味においても今後調査によって得られた成果をできるだけ早く市民や研究者に還元できるような施策が必要となろう。また、発掘調査の終了した遺跡の内、消滅したもの、一部残っていると考えられるもの、残っているもの、新発見遺跡などをもう一度地道にあららい出し周知していく必要が出てくると思われる。

遺跡についての詳細および他遺跡については、今年度発行予定の概要報告書を参照願いたい。また、本稿は、「発掘調査のあらまし」・市報平成12年1月25日号などを参考に記述している。

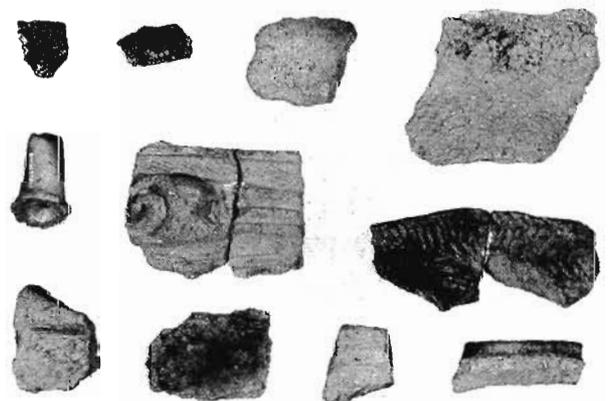


写真12 泥木遺跡出土遺物

（太田喜重）

2. 埋蔵文化財等調査報告書刊行事業

文化財課では、平成9年度より開始した笹山遺跡発掘調査報告書刊行事業を契機に、今後継続的に報告書を刊行することになり、まず10年度に前記『笹山遺跡発掘調査報告書』が刊行された。この報告書は重要文化財「笹山遺跡出土品一括（928点）」の根本的な由来を示し、また戸籍をなす貴重な資料となるため、その点に意を用いて編集された。なお並製本のほかに、特別に箱入り上製本も刊行された。

平成11年度は、市の新長期発展計画に継続事業として、埋蔵文化財等調査報告書刊行事業が組み込まれた第1年目に当たる。本年度は、昨年度の笹山遺跡報告書作成事業と一部並行しながら進めてきた馬場上遺跡の土器実測、遺構図面の再整理などを行なった。本遺跡については、昭和49（1974）年に第1・2次、同50年に第3・4次、同55（1980）年に第5次、同59（1984）年に第6次調査が行われた。遺物の基礎的な整理作業は、それぞれその後、予算のやり繰りや算段によって終了し、土器などの遺物の実測も早くから断続的にはあるが実施してきた。そのため、表記などに関する統一性や齟齬の見直しが必要であり、また観察データの追加なども考慮しなければならなくなっている。今後、どこまでやるかが大きな問題で苦慮するところである。

このことを見当する意味もあって、馬場上遺跡とほぼ同時代の、他遺跡の復元土器の実測も併せて行った。柳木田遺跡（新宮）は古墳時代と奈良・平安時代がほぼ終り、社畑遺跡（八幡）は平安時代が終了、河原田遺跡（伊達）も平安時代がほぼ終了した。これらの遺跡の土器は、昨年度から手掛け始めていたのであるが、本年度は谷内A遺跡など、近年の発掘調査による出土資料も、『発掘調査概要報告書』の作成の関係もあり若干行った。

また本年度は、新潟墨書土器検討会（新潟大学人文学部日本古代史研究室）による、県内の墨書土器資料集成に対する協力依頼もあって、当市内遺跡より出土した墨書土器について、平成10年度までに把握しているすべての資料を破片を含めて実測した。柳木田遺跡・河原田遺跡・社畑遺跡の出土資料である。なお本年度、谷内A遺跡（下条3丁目）からも出土し、資料が増加することになった。

柳木田遺跡 復元個体 坏4点 破片 坏9点
墨書銘 石井^か・富井^か・宮所^か ほか
社畑 遺跡 復元個体 坏1点

墨書銘 判読不能

河原田遺跡 復元個体 坏1点 破片 坏13点
墨書銘 天・大・刀・西 ほか

これらの中で、資料的には柳木田遺跡が質、量ともに秀でているが、社畑遺跡からは関連資料として円面硯が出土しており、極めて注目される。

以上、昨年度から引継ぎ進めている土器等の実測は、馬場上遺跡をはじめとする古墳時代から奈良・平安時代の土師器や須恵器が主体で、器種は坏・高坏・器台・碗・鉢・蓋・壺・甕など変化に富むが、成形および整形痕の図示を除けばそれほど複雑な表現を要しない。人力による実測も経験を積みばかなりの能率となる。しかしながら、複雑な造形や模様を施す縄文土器や、中世の輸入陶磁器（中国産の白磁・青磁・染付など）となると、人力では極めて非能率的である。縄文土器については比較的早くから機械実測の研究が進み、幾つかの方法で実用化され当市でもこれを数年前から採用している。

近年、この機械実測方法が飛躍的に進歩し、繊細で複雑な模様を施す中世の染付や青磁などの実測に採用され、その高率性と廉価性はすこぶる魅力的である。また最近の実測システムの中には、破片や小品をはじめ形姿の大小・造形・模様の多寡などを問わずほとんど対応できるようになってきている。そこで本年度から、伊達八幡館跡・南谷内館跡・河原田遺跡などの中世・近世遺跡の出土遺物についても、この機械実測を採用してみることにした。業者はこのシステムを「レーザーならではの高精度測定に加え、コンピューターによる画像補正・高速精緻描画、そして先進のデジタル技術により、実測品質と業務効率を飛躍的に高め云云」としている。確かに染付などの実測（描画）はすばらしいし、また破片や普通の一面実測は能率的である。（阿部恭平）

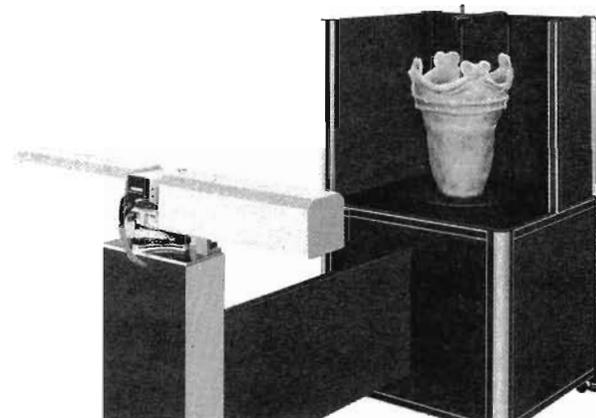


写真13 デジタルカメラ構成レーザー式非接触三次元実測機

3. 資料紹介

十日町市出土の動物意匠土器3例

石原正敏

はじめに

意匠とは「美術・工芸・工業製品などの形・色・模様・配置などについて独自の工夫」（講談社『日本語大辞典』第2版）を凝らしたものを指す。動物意匠が縄文時代前期後半期の諸磯式土器に多く見られることはよく知られている通りである。近年、人面・土偶装飾付深鉢形土器については、全国的な集成研究が行なわれている（吉本・渡辺1994・1999）。

本3例は、いわゆる中期初頭～中葉期の発掘資料である。しかし、2、3は現場で発見、識別されているが、1は水洗・注記・分類整理作業の中で抽出されている。中澤幸男氏の不断のご努力により平成4～5年に復元されているが、重文および国宝の指定は受けていない。これらの動物意匠土器は県内でも出土例の少ない資料であり、今後の研究進展の一助となれば幸いである。

個別記載（第2図、写真14～17）

1は笹山遺跡出土の深鉢形土器である（菅沼ほか1998）。口径35.5cm、底径19.0cm、高さ45.0cmである。3次調査の昭和57年6月4日にAB-45グリッド2層で出土した。鋸歯状の口縁に4つの動物意匠把手がつくものと推定されるが、残存するのは1つ半である。北陸の新崎～上山田式（東北の大木7b～8a式）に併行する時期のものと思われる。いかにも越後の中期の土器らしい三角形土偶を貼りつけたような特異な意匠であるが、他に類例が見つからない。（人間、それも母親と子供を表現した）「抱きつき文」（土肥1996）、「四方を向くシカの神」（渋谷1997）など様々な見方がある。目（乳房？）のような突起、土偶の下の方や足を模した装飾が何を意味しているのか、興味あるところである。内外面は明褐色を呈し、胴下半は赤化している。焼成及び保存状態は良好である。胎土は雲母の細粒を少量含む。顔料等の付着は認められない。

2は中新田A遺跡出土の深鉢形土器の把手である（菅沼ほか2000）。平成11年7月20日にNF-8グリッド2層で出土した。ほかに同一個体の把手が1点見つかっている。クマの頭部を模した動物意匠把手と推定される。内面から見ると、イノシシの可能性も捨てきれない。関東の五領ヶ台Ⅱ式や北陸の新保

式に併行する時期のものと思われる。外面は褐色、内面は明褐色を呈す。焼成及び保存状態は良好で、胎土は白色の細粒を少量含む。顔料等の付着は認められない。

中期初頭期の動物意匠把手は、県内では笹神村杉遺跡、栄町吉野屋遺跡、見附市山崎A遺跡、出雲崎町タテ遺跡、柏崎市剣野E遺跡、中郷村和泉A遺跡、小木町長者ヶ平遺跡などで出土している。しかし、これらは鳥を模したと考えられる意匠で、本例のようなクマの表現は現在のところ類例がない。

3は南雲遺跡出土の台付鉢形土器である（中川ほか1976、菅沼ほか1996）。昭和50年7月1日～4日に14トレンチI層で出土した。口径約24.0cmの平口縁で、現存高は約11.0cmであるが、台部はほとんど残っていない。口縁部下には、1対のカエルを具象化したと思われる突起が付けられている。1の土器と同じくらいの時期のものと思われる。内外面は褐色～明褐色を呈す。焼成及び保存状態は良好で、胎土は白色の細粒を少量含む。顔料等の付着は認められない。

おわりに

限られた紙数のため、資料紹介にとどまらざるを得ないが、今後発見例が増え、分布、地域別や時期別の特徴等が明確になるよう期待したい。また、縄文人の美意識、思想、哲学といった観点からも検討すると面白いのではないかと考えている。なお、ここで動物意匠という場合、広い意味でヒトを含んで考えたが、諸賢のご教示をお願いする次第である。

本稿は、この10数年にわたり発掘調査及び遺物整理の諸作業と一緒に携わっていただいた、多くの方々のご協力によって成し得たものである。心より厚くお礼申し上げる。なお、実測図作成で（株）こうそくの横尾藤雄氏、写真撮影で庭野良平氏、類例の検索では宮内信雄氏の手を煩わせた。日頃より啓発をいただいている小熊博史、渋谷昌彦、土肥孝、中澤幸男、長谷川福次の各氏と（中条）笹山縄文探険団の皆さんのご厚情にも感謝申し上げます。

引用・参考文献（50音順）

群馬県立歴史博物館・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『縄文文化の十字路・群馬一土器文様

の交流一』

渋谷昌彦編 1997 『縄文の土器展—縄文人からのメッセージ—』 (静岡県) 島田市博物館

菅沼亘・阿部恭平・石原正敏ほか 1996 『十日町市史資料編2 考古』 十日町市

菅沼亘・阿部恭平・石原正敏ほか 1998 『笹山遺跡発掘調査報告書』 十日町市教育委員会

菅沼亘編 1999 『図録 笹山遺跡—国宝指定 笹山遺跡出土品のすべて—』 十日町市博物館

菅沼亘・太田喜重・石原正敏・宮内信雄ほか 2000 『平成10・11年度 県営ほ場整備事業上組工区内遺跡発掘調査概要報告書』 十日町市教育委員会

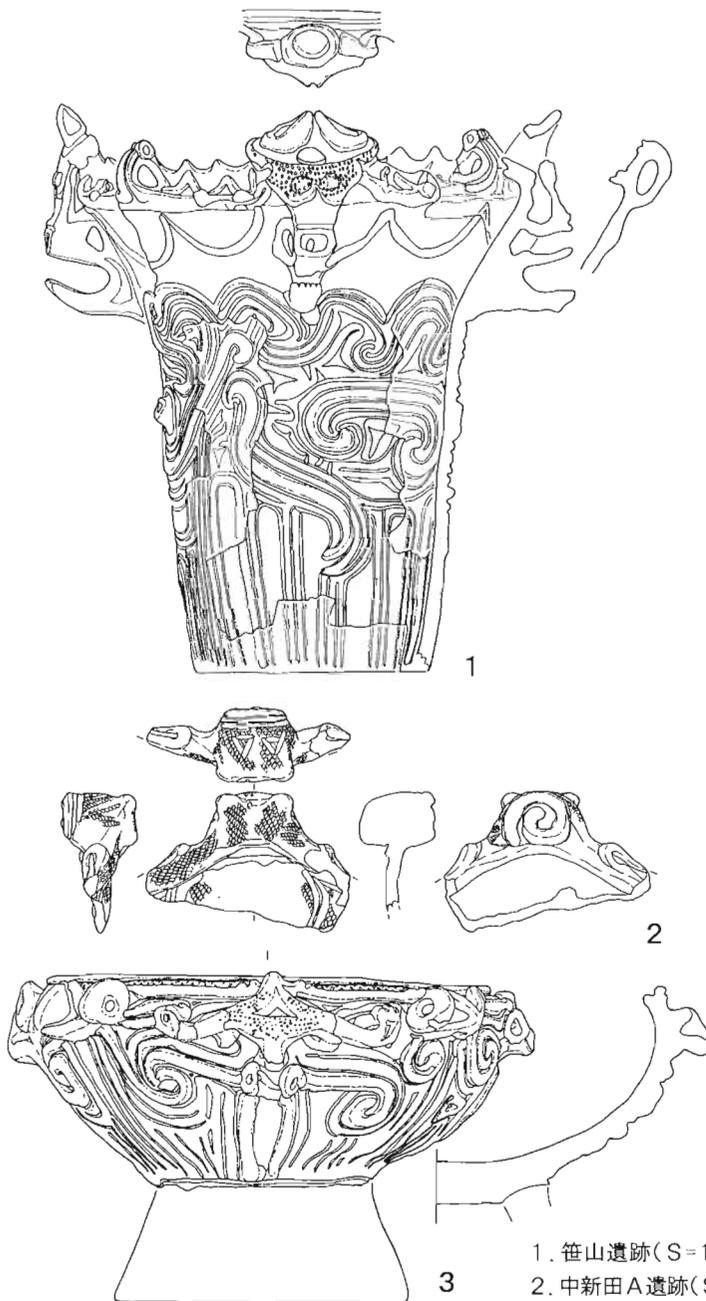
土肥孝 1982 『日本の美術190 縄文時代Ⅱ (中期)』 至文堂

土肥孝 1996 「縄文社会と火焰形土器」『火焰土器研究の新視点』 十日町市博物館

中川成夫・島田靖久・阿部恭平ほか 1976 『十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報2』 十日町市教育委員会

吉本洋子・渡辺誠 1994 「人面・土偶装飾付土器の基礎的研究」『日本考古学』1 日本考古学協会

吉本洋子・渡辺誠 1999 「人面・土偶装飾付深鉢形土器の基礎的研究 (追補)」『日本考古学』8 日本考古学協会



第2図 動物意匠土器実測図

- 1. 笹山遺跡(S=1/6)
- 2. 中新田A遺跡(S=1/4)
- 3. 南雲遺跡(S=1/4)



写真14 深鉢(全体)



写真15 動物意匠(拡大)



写真16 台付鉢(全体)



写真17 動物意匠(拡大)

IV. その他

表10～11 指定文化財一覧

平成12年3月31日現在

〔国宝〕

| 番号 | 種別 | 名称 | 員数 | 指定年月日 | 所在地 | 所有者・管理者 | 備考 |
|----|------|---|----|-------------|-------|---------------|------|
| 1 | 考古資料 | 笹山遺跡出土深鉢形土器 57 点 (附 土器・土製品類ほか 871 点) | | 平成 11. 6. 7 | 西本町 1 | 十日町市 (博物館) | 縄文時代 |

〔国重要文化財〕

| 番号 | 種別 | 名称 | 員数 | 指定年月日 | 所在地 | 所有者・管理者 | 備考 |
|----|------|----------------|-------|--------------|-----|---------|-----------|
| 2 | 有形民俗 | 越後縮の紡織用具及び関連資料 | 2098点 | 昭和 61. 3. 31 | 〃 | 〃 | 江戸～明治時代 |
| 3 | 〃 | 十日町の積雪期用具 | 3868点 | 平成 3. 4. 19 | 〃 | 〃 | 江戸～昭和30年代 |

〔新潟県文化財〕

| 番号 | 種別 | 名称 | 員数 | 指定年月日 | 所在地 | 所有者・管理者 | 備考 |
|----|-------|----------------------|------|------------------------------|------------|--------------------|------------|
| 4 | 建造物 | 神宮寺観音堂・山門 | 2 棟 | 平成 3. 3. 29 | 四日町 | 神宮寺 | 江戸期 |
| 5 | 絵画 | 山水図釧雲泉筆六曲屏 | 1 双 | 昭和 29. 2. 10 | 山本 | 関口芳央 | 江戸時代末期 |
| 6 | 彫刻 | 木造十一面千手観音立像 | 1 軀 | 昭和 46. 4. 13 | 四日町 | 神宮寺 | 平安時代後期 |
| 7 | 〃 | 木造四天王立像 (伝広目天・伝昆沙門天) | 2 軀 | 昭和 49. 3. 30 | 〃 | 〃 | 平安時代末期 |
| 8 | 有形民俗 | 越後縮幡 | 74 旒 | 昭和 49. 3. 30 追加 50. 3. 29 | 吉田山谷 ほか | 吉田社ほか 6 社 (博物館) | 江戸～明治時代 |
| 9 | 史跡 | 大井田城跡 | | 昭和 53. 3. 31 | 中条 | 十日町市 | 南北朝期 |
| 10 | 天然記念物 | 小貫諏訪社の大スギ | 1 本 | 昭和 53. 3. 31 | 小貫 | 諏訪神社 | 幹囲 8. 33 m |

〔新潟県選定保存技術〕

| 番号 | 種別 | 名称 | 員数 | 指定年月日 | 所在地 | 所有者・管理者 | 備考 |
|----|--------|---------|-----|--------------|-----|---------|----|
| 一 | 選定保存技術 | 十日町茅葺職人 | 4 人 | 平成 12. 3. 31 | — | — | |

〔十日町市指定文化財〕

| 番号 | 種別 | 名称 | 員数 | 指定年月日 | 所在地 | 所有者・管理者 | 備考 |
|----|------|----------------------|-------|-----------------------------|-------|-----------------------|----------------------------|
| 11 | 建造物 | 智泉寺山門 | 1 棟 | 平成 6. 3. 23 | 昭和町 3 | 智泉寺 | 江戸時代中期 |
| 12 | 〃 | 観泉院山門 | 1 棟 | 平成 7. 3. 24 | 土市 | 観泉院 | 〃 |
| 13 | 絵画 | 一遍上人絵詞伝 | 8 巻 | 昭和 54. 9. 12 | 川原町 | 小林賢有 | 〃 |
| 14 | 彫刻 | 木造阿弥陀如来立像 | 1 軀 | 平成 8. 3. 21 | 川原町 | 来迎寺 | 鎌倉時代後期 |
| 15 | 工芸 | 越後縮裂見本帳 | 2 冊 | 昭和 47. 11. 28 | 本町 3 | 蕪木孫右 | 江戸期 |
| 16 | 〃 | 十日町市織物歴代標本帳 | 47 冊 | 昭和 62. 2. 23 追加 1. 2. 16 | 西寺町 | 十日町織物工業協 同組合 (博物館) | 明治25年～昭和13年 明治42年～昭和 8年 |
| 17 | 〃 | 縮問屋加賀屋の御用縮 及び関連資料 | 110 点 | 平成 2. 6. 8 | 西本町 1 | 蕪木元昭 (博物館) | 江戸時代後期 |
| 18 | 有形民俗 | 越後アングイン及び関連資料 | 一括 | 平成 11. 3. 16 | 〃 | 十日町市 (博物館) | 江戸～明治時代 |
| 19 | 古文書 | 太子堂村検地帳 | 4 点 | 平成 12. 3. 21 | 〃 | 若井基八郎 (博物館) | 中世～江戸時代 初期 |
| 20 | 考古資料 | 馬場上遺跡出土品 | 一括 | 平成 2. 2. 22 | 〃 | 〃 | 古墳時代中期～平安時代 |
| 21 | 考古資料 | 笹山遺跡出土品 (国指定分を除く) | 一括 | 平成 2. 2. 22 | 〃 | 〃 | 縄文時代、中世 |
| 22 | 考古資料 | 伊達八幡館跡出土品 | 一括 | 平成 11. 3. 16 | 〃 | 〃 | 中世 |
| 23 | 考古資料 | 幅上遺跡出土品 | 一括 | 平成 12. 3. 21 | 〃 | 〃 | 縄文時代 |
| 24 | 歴史 | 旗指物 | 1 旗 | 昭和 55. 4. 11 | 六箇山谷 | 富井清孝 | 江戸時代初期 |

| 番号 | 種別 | 名称 | 員数 | 指定年月日 | 所在地 | 所有者・管理者 | 備考 |
|----|-------|---------------------------------|-----------------|----------------------------|------|------------|----------------|
| 25 | 無形民俗 | 赤倉神楽 | | 昭和 51.11. 8 | 赤倉 | 赤倉神楽保存会 | |
| 26 | " | 大の坂 | | 昭和 59. 1.26 | 中条旭町 | 中条大ノ坂保存会 | |
| 27 | " | 新保広大寺節 | | " | 下条本町 | 新保広大寺節保存会 | |
| 28 | " | 新水のドウラクジン (道楽神) とハネツケエーシ (羽根返し) | | 平成 7. 3.24 | 新水 | 新水地区 | |
| 29 | 工芸技術 | 越後アンギン製作技術 | | 平成 11. 3.16 | 西本町1 | 越後アンギン伝承会 | |
| 30 | 史跡 | 四日町神宮寺境内地及び山林 | | 昭和 47.11.28 追加 49. 6.11 | 四日町 | 竹内道雄 | 江戸期 |
| 31 | " | 大黒沢正平在銘梵字碑 | 1基 | 昭和 51. 1.10 | 大黒沢 | 村山キノエ | 南北朝期 |
| 32 | " | 鉢の石仏 | | 昭和 53. 1.28 | 鉢 | 鉢石仏保存会 | 江戸期民間信仰跡 |
| 33 | " | 笹山遺跡 | | 平成 4.12. 3 | 中条上町 | 岩田栄十郎ほか | 縄文時代 |
| 34 | " | 羽川 (秋葉山) 城跡 | | 平成 10. 3.25 | 六箇麻畑 | 麻畑・羽川城跡保存会 | 戦国期 |
| 35 | 名勝 | 積翠荘 | | 昭和 55. 4.11 | 吉田山谷 | 酒井うめ子 | 江戸期 |
| 36 | 天然記念物 | 姿箭放神社大ケヤキ | 1本 | 昭和 63. 7.20 | 姿 | 箭放神社 | 樹齢約550年幹囲5.14m |
| 37 | " | 高龍神社社叢 | | 平成 1.10. 3 | 背戸 | 高龍神社 | |
| 38 | " | 安養寺松尾神社の大スギ | 1本 | 平成 4. 3.21 | 安養寺 | 安養寺地区 | 樹齢約500年幹囲7m |
| 39 | " | 安養寺円通庵の三本スギ | 3本 | " | " | " | 樹齢約 500 年 |
| 40 | " | 枯木又龍王池とカスミザクラ及び三本スギ | 1ヶ所 1本 3本 | 平成 6. 3.23 | 枯木又 | 枯木又地区 | |
| 41 | " | 入山のカスミザクラ | 1本 | 平成 9. 3.24 | 入山 | 山本丑松 | |

表12 現状変更等許可申請に関する一覧 (昭和63年～現在まで)

平成12年3月31日現在

| 番号 | 種別 | 名称 | 内容 | 着手及び完了時期 | 備考 |
|----|-----|-------|-------------------------|----------------------|---------|
| 1 | 史跡 | 大井田城跡 | 樹木の植栽等環境整備 | S.63.11.8～S.63.11.15 | 条件付きで許可 |
| 2 | " | " | 公衆便所の設置 | H.3.4.～H.3.4. | " |
| 3 | " | " | 石碑の建立 | H.5.6.15～H.5.7.10 | " |
| 4 | 建造物 | 智泉院山門 | 屋根融雪装置の設置 | H.9.11.1～H.10.3.31 | " |
| 5 | " | 観泉院山門 | 山門金具の修復 | H.11.5.1～H.12.1.21 | " |
| 6 | 史跡 | 鉢の石仏 | 階段てすりの設置、鳥居の袴のかさあげ | H.12.4.～H.12.6.(予定) | " |
| 7 | " | 鉢の石仏 | 大地の芸術祭作品の設置、駐車場整備、石積の設置 | H.12.4.～H.12.9.(予定) | " |

表13 文化財課10年の記録 (1990.4～2000.3)

| 年 度 | 予 算 ・ 人 員 ・ 出 来 事 な ど |
|--------------|--|
| 1990(平成2)年度 | 当初予算額 24,460 千円、補正額 3,820 千円、決算額 28,068 千円、不用額 212 千円 〔職員〕 星野元一、斎木仁、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、河合順之 (8月～) 〔出来事〕 文化財課の新設 (4.1)、幅上遺跡の発掘調査、大井田城跡に説明板設置 |
| 1991(平成3)年度 | 当初予算額 32,823 千円、補正額 6,860 千円、決算額 39,456 千円、不用額 227 千円 〔職員〕 星野元一、斎木仁、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、河合順之 (～5月)、(臨時) 山田敏枝・上野洋子・遠田芳子・吉沢順子 〔出来事〕 十日町の積雪期用具の重文指定 (4.19)、リゾート関連遺跡調査の委託契約締結 (～平成8年度)、神宮寺に説明板設置 |
| 1992(平成4)年度 | 当初予算額 37,778 千円、補正額 2,681 千円、決算額 40,224 千円、不用額 235 千円 〔職員〕 波形卯二、斎木仁、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、菅沼亘、星野奈美、(臨時) 山田敏枝・上野洋子・遠田芳子・吉沢順子 〔出来事〕 大井久保遺跡・ぼんのう遺跡の発掘調査、鉢の石仏に説明板設置 |
| 1993(平成5)年度 | 当初予算額 27,255 千円、補正額 14,390 千円、決算額 41,389 千円、不用額 256 千円 〔職員〕 波形卯二、熊木剛、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、菅沼亘、星野奈美、(臨時) 山田敏枝・上野洋子・吉沢順子 〔出来事〕 大黒沢正平在銘梵字碑と姿箭放神社の大ケヤキに説明板設置 |
| 1994(平成6)年度 | 当初予算額 24,206 千円、補正額 1,053 千円、決算額 25,156 千円、不用額 103 千円 〔職員〕 波形卯二、熊木剛、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、菅沼亘、星野奈美、(臨時) 山田敏枝・上野洋子 〔出来事〕 大沢遺跡・城之古遺跡の発掘調査、高靄神社社叢に説明板設置 |
| 1995(平成7)年度 | 当初予算額 35,197 千円、補正額△ 4,746 千円、決算額 29,911 千円、不用額 539 千円 〔職員〕 波形卯二、熊木剛、阿部恭平、庭山敏子、竹内俊道、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、星野奈美、(臨時) 山田敏枝・上野洋子 〔出来事〕 安養寺松尾神社の大スギ・円通庵の三本スギに説明板設置 |
| 1996(平成8)年度 | 当初予算額 90,334 千円、補正額△ 19,360 千円、決算額 67,104 千円、不用額 3,870 千円 〔職員〕 波形卯二、熊木剛、阿部恭平、竹内俊道、庭山敏子、角山誠一、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、(臨時) 山田敏枝・上野洋子、(補助員) 吉楽勝弥 〔出来事〕 野首遺跡・島A遺跡・なんぜん萱場遺跡の発掘調査、笹山遺跡に説明板設置 |
| 1997(平成9)年度 | 当初予算額 75,599 千円、補正額 4,276 千円、決算額 77,673 千円、不用額 2,202 千円 〔職員〕 風間栄光、阿部恭平、高橋アキ、竹内俊道、庭山敏子、角山誠一、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、(臨時) 山田敏枝・上野洋子、(補助員) 吉楽勝弥 〔出来事〕 寿久保遺跡・つつじ原C遺跡の発掘調査、観泉寺山門に説明板設置 |
| 1998(平成10)年度 | 当初予算額 23,004 千円、補正額 7,786 千円、決算額 30,407 千円、不用額 383 千円 〔職員〕 風間栄光、丸山克巳、阿部恭平、高橋トシ子、高橋アキ、竹内俊道、角山誠一、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、村山恵美子、(臨時) 山田敏枝・上野洋子 〔出来事〕 『笹山遺跡発掘調査報告書』の刊行、智泉寺山門に説明板設置 |
| 1999(平成11)年度 | 当初予算額 38,400 千円、補正額△ 1,490 千円、決算額 千円、不用額 千円 〔職員〕 山田正毅、阿部恭平、高橋トシ子、高橋アキ、村竹修、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、村山恵美子、(臨時) 山田敏枝・上野洋子 〔出来事〕 笹山遺跡出土品の国宝指定 (6.7)、谷地A遺跡・中新田A遺跡などの発掘調査、羽川城跡に説明板設置 |



十日町市教育委員会 文化財課年報 4

発行日／平成 12 年(2000) 3 月 31 日

編集／十日町市教育委員会（文化財課）
発行／十日町市博物館友の会

〒 948 - 0072 新潟県十日町市西本町 1 丁目

十日町市博物館内

十日町市教育委員会文化財課

T E L (0257) 57 - 5531

F A X (0257) 57 - 6998

印刷／(株)滝沢印刷所